

## 1. 事業の成果

50年後の地球環境、我が国の自然環境、地域の自然環境、沖ノ島及び周辺エリアの自然環境を見据え行動する。そのための出来ること「自然環境を守り・伝える」ことを持続可能な方法で行い、未来を生きる子供たちのための地域の安全安心な自然環境と生活環境を実現に寄与することを目指した。  
エコツーリズムからローカルSDGsへローカルSDGs⇨地域循環共生圏⇨自立分散型社会の実現を目指した。

### (1) 自然環境保全に係わる自然体験活動及び環境教育活動に関する事業

#### ①自然体験活動

##### ◆沖ノ島定期開催活動

- ・リーダーができる人材の育成を行い、年間稼働率を上げることを目指し実施した。112人が参加した。
- ・じゃらん遊び体験予約との連携を継続し上記参加者のうち65人が参加した。
- ・運営マニュアルの作成を継続し活用した。

##### ◆スノーケリング活動

- ・夏季は通期で実施することができた。570人が参加した。
- ・沖ノ島スノーケリングの運営マニュアルを見直しし徹底し実施した。
- ・活動備品などの検討を行い、メーカーAQAと連携した。
- ・事前練習会を6月から行き安全な活動に努めた。心肺蘇生法訓練(CPR)を2023年7月2日実施した。

##### ◆クラフト体験(イベント含)

- ・2023年4月30日、イオンタウン主催のイベントに出展し、約30人が参加した

#### ②募集企画活動

##### ◆つり体験

- ・ちよい投げ釣り(随時募集型)を行った。個人グループ対応し2グループが参加した。
- ・館山夕日棧橋ちよい投げ釣り大会は、棧橋が拡張工事の為昨年度に引き続き延期となった。

#### ③環境学習体験活動

##### ◆修学旅行・体験学習など沖ノ島など団体受け入れに6,182人が参加した。

- ・コーディネートのスキルアップと他団体(MAPSなど)との連携を模索した。
- ・体験プログラムを他団体(体験交流協会・館山市観光協会・千葉自然学校・南房総市観光協会・アクトンデイ)と連携を行った。
- ・足立区の小学校へのアプローチを行い、上記のうち26校 約1,867人が参加した。
- ・沖ノ島の森の再生活動を内容に盛り込み、環境教育ツール2021年度版ツール(リーフレット)を活用し3団体、約200人が参加した。
- ・ウミホテル観察団体受け入れを、5団体194人に実施した。

### (2) 自然環境保全活動及びその普及啓発活動に関する事業

#### ①環境保全活動(実践)アマモと森の再生

◆アマモ場再生の実践活動を、アマモ部会を中心に行った。また、館山港UMIプロジェクト検討会による企業連携を開始した。(東亜建設工業株式会社・千葉支店)

- ・5月移植 6月花枝採集 9月選別 11月種まきを実施、館山総合高校・安房高校との連携による高校生等

も含み、延べ 254 人が参加しアマモ場再生を実施した。

2017・2018・2019・2020・2021・2022 年度までの活動では、ノウハウを得る事が出来たが、残念ながら食害が原因と思われる移植したアマモの消失により再生が出来なかったため、種まきのやり方の工夫を行いながら継続した。

- ・千葉県立安房高等学校では、1 年生の探究学習でのアマモ場再生活動に協力した。
- ・南房総市立富山学園、富山中学校では、岩井海岸でのアマモ場再生に向けての取り組みに協力した。
- ・漁協、釣り具メーカー（ヤマリア）と連携しアマモ場再生に関わるアオリイカ産卵床の設置を 5 月に行い産卵を確認した。
- ・アマモ場再生のための定点調査（外部委託通年）を 6 回行った。
- ◆JEAN クリーンアップ海岸ゴミ調査清掃を 10 月に実施し 11 人が参加した。

#### ◆森の再生活動

・NPO 法人地球守(高田造園)と協力し、沖ノ島森の再生活動を 4 月～3 月にかけて自主的な小さい活動も含め 21 回実施し若者を含む延べ 293 人が実践した。

◆沖ノ島から一番近い河川蟹田川流域モデルエリアとして再生活動の可能性を模索した。

・2023 年 5 月 28 日に里山の夜の自然観察会を実施し、約 30 人が参加した。ゲンジボタルとヘイケボタルの生息を確認した。

・2024 年 1 月 8 日に里山の散策を実施し、約 20 人が参加した。「森里川海」の繋がりを理解する活動となった。今後地区の活動に協力していく。

#### ◆環境保全活動のビジネス化 ローカル環境ビジネスの育成

・館山 UMI プロジェクトでは、東亜建設工業株式会社（千葉支店）の支援によるアマモ場再生の取り組みがスタートした。さらに地元企業房州ガス株式会社も 3 月に参画を表明し活動の輪が広がった。

・企業との連携にて、デル・テクノロジーズ株式会社との活動がスタートした。

#### ◆認定 NPO の可能性

・各保全活動はその目的に関する寄付金を募り、コングラントも活用し延べ 101 人 380,545 円の寄付が集まった。認定 NPO に関してパブリックサポートテストの確認を行ったが基準をクリアできなかった。

## ②環境啓発活動

◆ガイドブック（海辺の生き物語）を約 107 冊活用した。また、第 3 版を 3000 冊追加発行した。

◆沖ノ島について考える検討会（官民連携）

5 月、10 月、2 月に年 3 回参画した。沖ノ島の環境保全活動への提言と協力を行った。

◆夏季ビジターセンター パークレンジャー活動を 7.8 月継続した。

・海水浴期間中のゴミ拾いタイムの設定し継続実施し効果をあげた。

#### ◆地域啓発イベントの実施

・2024 年 2 月 11 日に地域環境イベント「第 5 回里海博 2024」を地域の商業施設を会場に開催した。千葉県立安房高校はプロジェクト「あわわ」を中心にボランティアスタッフ・登壇者と準備から含め延べ 37 名、南房総市立富山中学校は 14 名が登壇者などで直接関わり、千葉県立館山総合高校と市内小学校は、展示コーナーなどで参画し「発言の場」として実践できた。イベント参加者は、記名受付にて 330 人、オンライン参加で約 150 人が参加し、現状や課題を共有することができた。

◆2023 年度 館山市委託事業、沖ノ島環境保全協力金事業実施

・千葉県立安房高等学校の生徒が中心となって約 30 名が参加した。館山市委託事業沖ノ島環境保全協力金では約 1300 万円の協力得ることができた。（協力金は市税に）

◆指導者養成講座を実施した。

・2024 年 2 月 17 日、18 日、24 日、25 日にて、環境人材育成のため「海辺の達人養成講座 in 南房総・館山」を開催し、10 人が参加した。参加者のうち「うみかんメイツ」に 4 名が加入した。

◆地域向け体験教室「沖ノ島探検隊」など 館山市中央公民館（行政）と連携して実施した。

◆YouTube チャンネル

映像コンテンツを、年間 15 本作成し、YouTube チャンネルにて 3 月までに 860 人が登録し、活用している。

## ③調査研究活動

・全国アマモサミット 2023in 福岡に 10 月に 3 名、岡山に渚の交番へ 2024 年 1 月に 5 名で視察し、地域のエコツーリズム研究とローカル SDGs の研究を行った。

## 2. 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
(1) 自然環境保全に係わる自然体験活動及び環境教育活動に関する事業	①自然体験活動 ・沖ノ島定期開催 ・スノーケリング体験 ・釣り体験	通年 夏季 通年	沖ノ島 沖ノ島 近隣海岸	20人 20人 2人	地域住民および来訪者 112人 570人 2グループ
	②環境学習体験	通年	沖ノ島など	160人	学校関係、教育団体等 6,182人
(2) 自然環境保全活動及びその普及啓発活動に関する事業	①環境保全活動 ・アマモ場再生活動	通年	沖ノ島周辺	100人	地域住民、来訪者 不特定 約254人
	・海岸清掃(JEAN)	11月	沖ノ島	10人	約11人
	・森の再生活動	通年	沖ノ島	100人	約294人
	②環境啓発活動 ・ガイドブック(海辺の生き物語) ・第5回里海博2024	通年 2月	地域の書店 観光施設 オンライン	10人 100人	地域住民、来訪者 不特定多数 107冊活用 リアル参加330人、オンライン約150人
	・沖ノ島環境保全協力金 ・里山モデル地区調査 ・指導者養成講座	7月8月 5月、1月 2月	沖ノ島周辺 館山市など 沖ノ島・大房	30人 10人 各5人	沖ノ島来訪者不特定 地域住民 26人 地域内外延べ10人
・YouTubeチャンネル	通年	オンライン		860名登録 不特定 多数	
③調査研究 ・アマモサミット・岡山視察	10月、1月	福岡・岡山	8人	団体メンバー 等	